



虹のキャラヴァンサライ
あいち
トリエンナーレ
2016

プレス リリース

2014年10月29日

あいちトリエンナーレ

〈開催目的〉

新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。
現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。

あいちトリエンナーレ 2010

都市の祝祭 Arts and Cities
芸術監督 建 畠 哲



あいちトリエンナーレ 2013

揺れる大地 —われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活
Awakening —Where Are We Standing?— Earth, Memory and Resurrection
芸術監督 五十嵐太郎

あいちトリエンナーレ2016 芸術監督

港 千尋 Chihiro MINATO

写真家・著述家 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授（映像人類学）



1960年神奈川県生まれ。

早稲田大学政治経済学部卒業。

2013年より国際交流基金国際展事業委員を務める。

群衆や記憶など文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション等、幅広い活動を続けている。著作『記憶—創造と想起の力』（講談社／96年）でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。

2006年に釜山ビエンナーレ共同キュレーターを、2012年に台北ビエンナーレ共同キュレーターを務める。

2007年にはヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館のコミッショナーも務めた。

テーマ

虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅

Homo Faber: A Rainbow Caravan

コンセプト

3回目となるあいちトリエンナーレは、
創造しながら旅を続ける人間をテーマに
したい。それは常に未知への、好奇心に
よる無限の探求のかたちをとる。

人間が創り出した物のうちで、現時点
で我々から最も遠いところであって、そ
の旅を続けているのは、アメリカが宇宙
へ送った探査機である。このうち1977年
に打ち上げられたヴォイジャー1号と2号
には「ゴールデンレコード」と呼ばれる
金属板が搭載され、そこには55の言語に
よる挨拶、さまざまな国の異なる音楽、自
然界の音、画像などが記録されていた。
太陽系を出て次の恒星にすれ違うのは、
およそ四万年後とされるから、仮に人間
以外の生命からメッセージが届いたとし
ても、地球がその時どうなっているかは
誰にも分からない。当時の合衆国大統領
は打ち上げに先立ち「われわれが現在直

面している課題を解消し、銀河文明の一
員となることを期待する」と語ったが、
この間に解消された課題が何なのか、自
信を持って言える「銀河文明の一員」は
まだいないだろう。途方もない距離と時
間の中で、好奇心を持つ人間による未知
への旅は続くのだ。

これらのヴォイジャーとは時の向きが
逆になるが、人間が創り出した最初の芸
術的造形は、およそ三万五千年前の洞窟
の闇のなかに残されている。それは人間
以外の生命の像で、さまざまな動物のイ
メージだった。それ以来、芸術は人間以
外の存在への好奇心とその連続性を示し
てきた。音、リズム、色彩、身ぶりなど、
芸術は自然界のなかに秩序を認め、その
要素を組み合わせ変換しつつ、自然界
には存在しない別の秩序をも探してきた
が、芸術と自然界の間には常に知性と感
性が取り持つ交流があった。もし仮にそ
の交流が困難になり、知性と感性とが分
離してしまえばどうなるだろうか。おそ
らく知性のみによる自然の隷属化、人間
の人間以外の生命からの絶対的な離脱、

あいちトリエンナーレ2016

港 千 尋

生命と土地との切斷、さらには人間自身の人間性からの乖離という、最も深刻な課題に直面せざるを得ないだろう。

白い光のなかに自然科学は「虹」の多色のスペクトルを見る。同様に世界の神話は大空を貫くドラゴンを語る。詩は光のなかに感情を、音楽は光のなかに諧調を聴く。これらもすべて「虹」である。こうして、自分以外の存在との連続性のなかから、音と色彩を見つけ出し、それを歌や踊りに変え、言葉とイメージを作りだしてきた人間は、2016年までに、どのような新たなヴィジョンを創り出しているだろうか。生きている土地との長い関係を通じて生まれ育まれてきた芸能と芸術、そして技術の伝統があり、そのイノベーションを続けてきた愛知は、世界に向けて「先端的」であることを提案するこの国際芸術祭の格好の舞台となるだろう。

あいちトリエンナーレは美術、映像、音楽、パフォーマンス、オペラなど、現代行われている芸術活動をできる限り「複合

的」に扱おうとする稀有な国際芸術祭である。これは芸術が専門化してジャンルに分化する以前に、原初的に持っていたであろう、自然界との連続性を再発見するにはまたとない機会となる。また、同時代に生きる人間が創造行為を通して自由にアイデアを交換し、その方法を知り、感動を共有する、開かれた「祝祭的」な場ともなる。

芸術そのものが未知への旅である。同様に、人間の営みそのものが未知への旅である。そして、芸術祭のかたちもひとつの旅だ。それはたくさんの人が集い、あらゆるボーダーを越え、来るべき響きとかたちを求める探究のキャラヴァンである。わたしたちの時代の「ゴールデンレコード」はわたしたちで作ろう。展覧会、舞台芸術をはじめ、さまざまな好奇心をもった人が集う多彩なイベントが行われる場所が、わたしたちの「キャラヴァンサライ」、つまり、旅の疲れを癒しつつも、次なる未知への旅への英気を養う家となるのだ。

今、無限の想像力を結集して創造の旅が^{キャラヴァン}出発する。

あいちトリエンナーレ 2016 メインビジュアル



デザインコンセプト

コンピュータによって自動生成された線は、シンプルでありながらもひとつとして同じかたちにならず、それらが集まってもうひとつのイメージをつくりだします。創造と探求の旅をテーマに、根源的でありながら未来に向かおうとする芸術の数々を、変化する線の集まりに重ねました。テーマカラーは太古の色であるイエローオーカーをベースに選定しました。

テーマカラー

基本色（特色）
PANTONE 130C



CMYK
C:0, M:35, Y:100, K:0



RGB
R:250, G:190, B:0



公式デザイナー

永原 康史

Yasuhito NAGAHARA



1955年大阪府生まれ。グラフィックデザイナー。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授（メディアデザイン）。ブックデザインや電子メディアのプロジェクト、展覧会のアートディレクションなどを手がけ、メディア横断的なデザインを推進している。2005年愛知万博政府出展事業「サイバー日本館」、2008年スペイン・サラゴサ万博日本館サイトのアートディレクターを歴任。著書に『デザインの風景』（BNN新社）、『日本語のデザイン』（美術出版社）、『デザイン・ウィズ・コンピュータ』（MdNコーポレーション）など。MMCAマルチメディアグランプリ展示イベント部門最優秀賞など受賞。

メッセージ

私たちは太古から長い旅を続けてきたキャラヴァンの先頭にいます。かつてのキャラヴァン隊がいつかの休息に手を打ち足を踏み鳴らして歌ったように、芸術はさらなる旅への祈りであり蓄えです。あいちトリエンナーレ2016が旅人たちの創造と祝祭の場となるよう、デザインの力を添えたいと思います。

シンポジウム『旅と創造』

登壇者：

池澤夏樹（作家・詩人） × 港 千尋

Natsuki IKEZAWA × Chihiro MINATO

人間の最も古い創作活動は、現生人類であるホモ・サピエンス・サピエンスの登場とほぼ同時期の三万五千年前に遡ると言われます。それは洞窟や岩陰に残された絵や手の痕跡ですが、似たような手の痕はユーラシア、オーストラリア、南米と世界中で発見されています。アフリカに生まれ地球上に拡散した人間は、旅をしながら創造してきたのです。

あいちトリエンナーレ2016 へ向けたシンポジウムは池澤夏樹氏をお招きして、神話時代に遡る人間の原初的な創造のかたちに立ち戻り、言葉とイメージの冒険を考えたいと思います。ギリシャ、東京、沖縄、フランス、札幌と移動と移住を続けながら、常に新しい言葉を紡いできた作家がいま、どのような地平を歩き、何を見つめているのか—その思考と眼差しは来る国際芸術祭のテーマを掘り下げるわたしたちにとって、大きな刺激となることでしょう。

港 千尋

2014年11月16日(日)

13:30－16:30

会 場：愛知芸術文化センター12階アトスペースA

参加費：無 料 (申込不要)

定 員：180名

※当日は開始時刻の30分前から受付を開始し、整理券を配布します。

なお、受付は先着順で行い、定員に達した場合は、入場をお断りすることがございます。

池澤夏樹 Natsuki IKEZAWA

1945年北海道帯広市生まれ。作家、詩人。

ギリシャ、東京、沖縄、フランス、札幌と移住し、世界的視野からの創作と評論活動を行う。88年『スティル・ライフ』で芥川賞、93年『マシアス・ギリの失脚』で谷崎潤一郎賞、94年『楽しい終末』で伊藤整文学賞、96年『ハワイイ紀行』でJTB紀行文学大賞、2000年『花を運ぶ妹』で毎日出版文化賞、『すばらしい新世界』で芸術選奨文部科学大臣賞、04年『静かな大地』で親鸞賞、05年『パレオマニア』で桑原武夫学芸賞、11年個人編集の世界文学全集で朝日賞を受賞する。



photo: © K. WASHIO

芸術大学連携プロジェクト

REN-CON ART PROJECT

— 連 繋 する 現 代 アー ト —

名古屋市芸術創造センターの舞台部分の改修工事期間を利用して、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学に関するアーティストの作品を展示する展覧会です。美術館やギャラリーとは異なる空間に展示される現代アートの作品をお楽しみください。



名古屋市芸術創造センター外観

会 期： 2015年2月17日(火)～3月8日(日)

会 場： 名古屋市芸術創造センター 1F～4F (エントランス・ホワイエ)

開館時間： 11:00～19:00 (ただし夜間にイベント開催の場合は20:00まで延長)

休館日： 2月23日(月)、3月2日(月)

観覧料： 無料

[参加作家]

愛知県立芸術大学関係

阿部大介／大崎のぶゆき／倉地比沙支／後藤あこ／森北伸／キュービックミュージアム

名古屋芸術大学関係

荒木由香里／駒井貞治／庄司達／杉浦光／竹内創／道楽同盟(増成峻平・佐竹佑太)／水内智英

名古屋造形大学関係

浅井佑子／川見俊／日比野ルミ／平野真美／水野勝規／山下拓也

主催：THEATER∞ART REN-CON(実行委員会)、公益財団法人名古屋市文化振興事業団(芸術創造センター)、
愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

[事務局・問い合わせ先] 公益財団法人名古屋市文化振興事業団(芸術創造センター) | 名古屋市東区葵一丁目3番27号

Tel: 052-931-1811 Fax: 052-931-7145

芸術大学連携プロジェクト Inter-University Project

この事業は、あいちトリエンナーレ2016に向けて、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学が連携するプロジェクトの一環として実施しています。

あいちトリエンナーレ地域展開事業

豊穡なるもの 現代美術 in 豊川 Fruitfulness – Contemporary Art in Toyokawa –

本展は、2015年1月にリニューアルオープンする豊川市桜ヶ丘ミュージアムとまちなかの空きビルや古民家を会場とした現代美術展です。
豊川の街を散策しながら、街とアートの魅力をお楽しみいただけます。

会 期： 2015年1月17日(土)～2月22日(日)

会 場： 豊川市桜ヶ丘ミュージアム、豊川信用金庫旧いなり支店、古民家

開場時間： 豊川市桜ヶ丘ミュージアム | 9:00–17:00

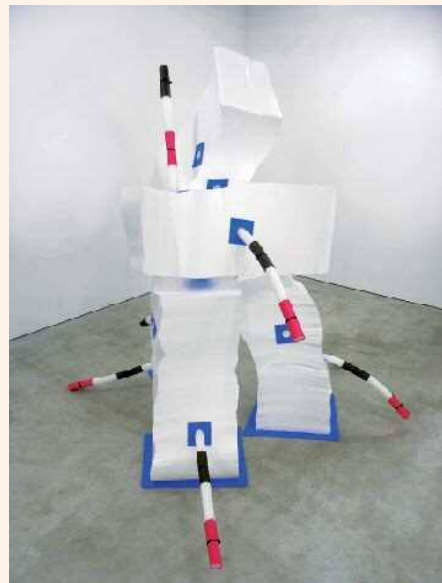
豊川信用金庫旧いなり支店、古民家 | 10:00–17:00

休館日： 毎週月曜日

観覧料： 無料

[参加作家 (30組32人)]

青木千絵／青木野枝／荒木由香里／伊藤存＋青木陵子／
伊藤里佳／今村文／小川健一／加藤マンヤ／貴志真生也
／坂本和也／佐藤雅晴／鈴木淳夫／鈴木孝幸／鈴木由衣
／関智生／セシル・アンドリュ／高木こずえ／千葉正也／
戸谷成雄／仲山進作／新美泰史／平松絵美／平松伸之＋
伊東里奈／深堀隆介／古川あいか／水野勝規／水野里奈
／宮嶋政穂／村田千秋／ムラタ有子



貴志真生也《主人(大)》2011 写真提供：児玉画廊

主催：あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会、豊川市

[問い合わせ先]

豊川市 | 豊川市小坂井町大堀10 豊川市小坂井支所 文化振興課 Tel:0533-78-4588 (ダイヤルイン) [2014年12月まで]

豊川市桜ヶ丘町 79-2 豊川市桜ヶ丘ミュージアム Tel:0533-85-3775 (ダイヤルイン) [2015年1月から]

あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会事務局 | 名古屋市中区三の丸3-1-2 愛知県県民生活部文化芸術課内

Tel: 052-954-6183 (ダイヤルイン) Fax: 052-972-6075 あいちアートプログラム <http://aichi-art.com>



<http://aichitriennale.jp/>

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 愛知芸術文化センター6階

Tel: 052-971-6111 | Fax: 052-971-6115